

# 自主、平等な民衆の念願を実現するチュチェ思想

チュチェ思想国際研究所事務局長  
尾上 健一

各国、各民族は長きにわたって、自主的で平等な関係にもとづいた新しい世界を希求してきました。21世紀がすでに4分の1を経た現在、多くの国が自主の道を歩み世界の大勢を占めるようになっていきます。時代はいま、平和と繁栄にたいする人類の念願を実現する本格的な軌道に入ったといえます。

一方、世界では、弱体化し凶暴化した米帝国主義が引き起こす侵略戦争によって、おびたしい人々が祖国を追われ、いまこの瞬間にも無慈悲な殺戮がくりかえされています。

世界は危急の問題に直面しており、民衆、民族の尊厳と自主権を確固と守るたたかいをどのようにおし進め、未来社会をどのように展望すべきか、その解答を切実に求めています。

## 1. 偉大な領袖によって民衆の幸せは実現する

こんにち、世界人民が求める自主的で平等な世界への道のりは、朝鮮民主主義人民共和国に、その領袖の思想と指導に明確に示されています。

政治の是非は民衆を中心に見なければなりません。

政治が帝国主義者の手に渡れば、民衆のあらゆる貴いものが奪われ、民衆の苦痛、悲嘆は際限なく続きます。

政治が民衆を尊び愛する領袖の手に委ねられれば、民衆の幸せの歌が国中に響くようになります。

民衆のためにすべてを投じる偉大な領袖によって民衆の尊厳が高まり、創造力は強化され、国が発展するという事は朝鮮革命の歴史が、今日の朝鮮の姿が、明白に示す真実です。

金日成主席、金正日総書記は民衆の幸福を実現するために全生涯を捧げ、厳しい革命の道を歩まれました。

金日成主席は「以民為天」を座右の銘とし、人民を太陽とあおぐ偉大な領袖です。

金日成主席は革命の主人は民衆であり、革命をおしすすめる力も民衆にあるとするチュチェ思想を創始し、民衆を歴史舞台の主人としておしたて、世界の自主の潮流を力強く牽引されました。

金日成主席は民衆を信じ民衆に依拠して 20 年の歳月に渡り抗日革命闘争をたたかい抜き、日本の植民地支配を打ち破り独立を勝ちとりました。

さらに、朝鮮民主主義人民共和国創建後まもなく侵略戦争をしかけた米帝国主義を撃退し、歴史的下り坂を歩むようにさせました。

金日成主席は世界ではじめて民衆中心の社会主義を建設した始祖です。

金日成主席は自主、自立、自衛を柱として朝鮮社会主義建設をおしすすめ、社会主義の模範の国を築き、チュチェの祖国の名を世界に知らしめました。

金日成主席は人民を師と仰ぎ、田のあぜ道で、高炉の傍らで、夜明け前の魚港で、人民が生活したたかうあらゆる場、あらゆる地域を訪ね、人民の素朴で率直な話に耳を傾け、また民衆が取り組むべき仕事や明るい未来について語り合う姿がありました。

金日成主席は新しい時代、自主時代における世界人民の領袖です。

金日成主席はチュチェ思想にもとづいて自主、自立、自衛の社会主義を立派に建設する模範を示しながら、世界の反帝自主勢力の団結を強化することに大きな力をそそぎました。

金日成主席は社会主義国、発展途上国への訪問を重ね、また朝鮮に招請しながら、懇切に各国が自主の道を歩み互いに団結するよう心を砕きました。

金日成主席は 1981 年、1983 年、1987 年に、非同盟諸国による会議を平壤で開催し、農業、文化、国際協力を発展させるための重要な演説をおこないました。

また、金日成主席は、発展途上諸国との協力において農業生産力の発展に第一義的な関心をはらい、アフリカ地域に農業科学研究所や試験農場を設置するとともに、朝鮮の有能な農業科学者と技術者を派遣し惜しみない援助と協力をおこないました。

主席は、全世界の自主化偉業を達成するためのたたかいを積極的におし進め、各国人民の心に大きな希望を抱かせたといえます。

チュチェの革命偉業は代を継いで発展させなければなりません。

金日成主席は金正日総書記を人民の指導者としてりっぱに育成され、自主偉業、社会主義偉業の後継者問題を完全に解決しました。

金正日総書記は軍を先立たせて仁徳政治をおこないながら社会主義朝鮮を米帝国主義の侵略策動から守り抜き、社会主義強盛国家の土台を堅く築いた偉大な領袖です。

金正日総書記の功績のひとつは、金日成主席の革命思想を思想、理論、方法の全一的な体系である金日成主義として定式化し、各国の民衆が主人として登場した新しい時代の指導思想を明示したことです。



クムスサン太陽宮殿前で(2024年4月15日)

また、金正日総書記は民衆に対する愛と信頼の政治によって領袖、党、民衆の統一体、革命の主体を決定的に強化しました。

金正日総書記は米帝国主義の朝鮮瓦解策動が強化され、経済制裁や自然災害が度重なる状況のなかで、「人民のために奉仕する」という党のスローガンを打ち出し、軍を先頭に難局を打開し人民の生活向上のために昼夜を分かたず活動しました。

人民にたいする愛と信頼は社会主義社会での政治の本質です。また、人民にたいする愛と信頼は社会主義政治の優越性と威力の源といえます。

金正日総書記は次のように述べています。

「国情が困難をきわめていた「苦難の行軍」、強行軍の時期にも、人民は困苦欠乏に耐え、党の指導に従って社会主義を守り、強盛大国の建設にこぞって立ち上がった立派な人民です。…こんな立派な人民のためであれば何をいとうことがありましようか。わたしはいま、寝ても覚めても、どうすれば人民に豊かな暮らしをさせられるかを考えています。力一杯働いて、近い将来、人民に何もうらやむことのない暮らしをさせ、すべての面で立派に押し立てるつもりです。これは、わが党の確固たる決意です（2003年10月28日「幹部は人民のために献身する人民の真の奉仕者にならなければならない」）。

ひたすら人民のために生涯を捧げた金正日総書記は、金正恩総書記を革命の後継者とし、人民の幸福な未来を確固と保証しました。

金正恩総書記は、金日成主席、金正日総書記の念願を自らの信念、最高規範とし、民衆に徹底して

服務する政治をおこなっています。

いま朝鮮は、人類初の社会主義完全勝利に向かって前進する国として、世界人民の尊敬を集めています。

金正恩総書記は、金日成主席と金正日総書記の思想は一つであるとして金日成・金正日主義として定式化し、さらに金日成・金正日主義の真髄は民衆第一主義であることを明らかにしました。

金正恩総書記は民衆第一主義を自ら力強く実践する偉大な領袖です。

金正恩総書記は、「すべてを人民の生活向上のために」を党のスローガンとして提示し、社会主義完全勝利の青写真を手に建設の熱風を巻き起こしています。

金正恩総書記は、2024年1月15日の施政演説で、都市と地方の格差をなくすための「地方発展20×10」政策を打ち出しました。

いま軍を先頭に全国20の市・郡に近代的な設備と生産工程を完備した工場を完成する闘いの炎が燃え上がっています。

金正恩総書記は軍の建設者にたいし、人口の絶対多数を占める地方の人民の生活水準を引き上げることは、これ以上顔を背けることも一瞬たりとも延ばすことはできないと述べながら、「この世に生まれた人なら、首都や地方、都市や山間を問わず、どこに住んでいようとも等しく国家の社会主義的施策の下で裕福かつ文化的な生活を享受すべきで、また必ずそれを実現しようというのが新しい地方政策の核です」と呼びかけています。（2024.2.28 地方発展20×10政策の実現のための初の着工に際して）

金正恩総書記はまた、米帝国主義をはじめ日韓の対米追従勢力に対して非妥協的な政治を貫いています。帝国主義の侵略戦争の脅威が存在する限り、軍事的備えが万全でなければ、民衆に自主的で創造的な生活を保障することはできません。

2023年11月、朝鮮は軍事偵察衛星「万里鏡」打ち上げに成功し、衛星は安定的に地球を周回しています。朝鮮はすでに米本土を射程に入れたICBMや原子力潜水艦などの核戦力を持ち、さらに軍事偵察衛星を備えることによって米帝国主義のいかなる侵略策動にも対処できる軍事強国となりました。

金正恩総書記は、「わが武力は、万里を見下ろす『目』と万里を叩く強力な『拳』をすべて手中に収める」と述べ、米帝国主義を震撼させています。

金正恩総書記は施政演説のなかで、80年間の北南関係を総括し“両国は一貫して敵対関係である”と規定しました。金正恩総書記はつぎのように述べています。

「今、南朝鮮というものは政治は完全に失踪し、社会全般がヤンキー文化で混濁しており、国防と安保は米国に全的に依存する植民地従属国に過ぎない。…北南関係はこれ以上、同族関係、同質関係ではない敵対的な両国関係、戦争中にある両交戦国関係に完全に固着された」

金正恩総書記は米帝国主義と南の傀儡に対する歴史的的分析に基づき、彼らとの協商や話し合いは無効であると述べています。

金正恩総書記は、民衆の幸福を破壊する敵対勢力に対しては彼らの軍事力に勝る高度な自衛の軍事力を持ち、敵の攻撃に対しては即座に、完膚なきまでに撃退するという意思を明らかにしています。

金正恩総書記が人民に注ぐ信頼と愛は朝鮮人民にとどまるものではありません。

金正恩総書記は2024年1月5日、新年早々大地震に見舞われた日本の被災地の人々に心のこもった見舞い文を送りました。

「日本で不幸にも年初から地震によって、多くの人命被害と物的な損失を受けた知らせに接し、遺族と被害者に深い同情とお見舞いの意を表します。被災地の人々が1日も早く地震の被害から復旧し、安定した生活を取り戻すことを願っています。」

朝鮮では近年、大型台風が何度も襲来し、地方の農村は甚大な被害を受けました。

金正恩総書記は直ちに被災地に赴いて水害の状況を把握しながら、その場で首都の党員に親書を送り復興建設に立ち上がるよう呼びかけました。

金正恩総書記は、軍と党員に被災した各地に新しく立派な近代都市、農村都市を建設するよう委任し、わずか2、3か月のうちに夢のような理想郷が建設されました。

領袖と軍、党員が全力で復興にあたり、見違えるように立派になったわが家、わが村を前にした人民の喜びは想像にかたくありません。

金正恩総書記が日本の被災者に送った手紙には、人民の不幸に胸を痛め復興が順調におこなわれるように願う気持ちが込められています。

政治的指導者が人民大衆第一主義の思想を備えるとき、人民の幸福は必ず実現することを朝鮮の現実がはっきりと見せています。

## 2. 公平で平和な世界をめざす反帝自主の闘争

現代の主流は自主の道にそって力強く流れていますが、弱体化し凶暴化した米帝国主義によって戦争と破壊の逆流が起きています。

侵略と略奪は、帝国主義の本性であり生存方式です。

帝国主義が出現して以来、人類は繰り返される侵略と戦争によって災難をこうむり、はかり知れない多くの人命と労働の成果を奪われてきました。

とりわけ米帝国主義は、侵略と略奪によって生まれ、たえまない侵略と略奪によって肥大化してきた、もっとも凶悪な帝国主義です。

いま、弱体化した米帝国主義は断末魔のあがきをみせ、ウクライナ、パレスチナで大量殺戮をおこなっています。

ウクライナでは、米帝国主義の傀儡と化したゼレンスキーの敗北が決定的になるとともに、ウ

クライナ人民の犠牲の実態が明らかにされつつあります。ウクライナでは、2023 年末の時点で、国外避難民 648 万人、国内避難民 369 万人にのぼっているといわれています（国連難民高等弁務官事務所）。また、ゼレンスキーは戦闘員の死者は 3 万人を超えたと発表しました。

パレスチナでは、2024 年 2 月末現在、ガザの死者は 3 万人以上に達し、その半数が幼い子どもたちです。国連人道調整事務所（OCHA）は約 57 万人が飢餓に直面していると警告しています。また、世界保健機構は感染症に苦しむ人が 18 万人以上に上ると発表しました（2023 年 12 月 29 日）。

米帝国主義はイスラエルを使ってパレスチナ人民にたいする拷問、虐殺の限りを尽くし、おびたしい人々の命と尊厳を奪い続けています。

今、世界人民はウクライナ、パレスチナ事態を注視し、ゼレンスキー、ネタヤニフに大量殺戮の武器を供与し続けている米帝国主義の歴史的犯罪を強く糾弾しています。

2023 年 12 月 29 日、南アフリカはガザ攻撃についてジェノサイドの性格をもつとして国際司法裁判所に提訴しました。

金日成主席は 1969 年の時点で、レバノンの新聞「アルアンワル」が中東危機に関する主席の考えを質問したことに対し、次のように答えています

「中東の危機は、シオニストを“突撃隊”にしたて、アラブ人民のあいだで高まっている反帝民族解放闘争を圧殺し、この地域を自己の従属下におこうとするアメリカをかしらとする帝国主義者の侵略策動によってつくりだされました。また、この危機がこんにちにいたるまで解決されず、中東の情勢がひきつづき緊張しているのも、もっぱらイスラエル侵略者とそれを操っているアメリカ帝国主義者の恥知らずな侵略策動に起因します。…こんにち、アラブ人民がくりひろげている反米反イスラエル闘争は、民族の独立と尊厳を守り、占領されたアラブの領土を取りもどし、パレスチナ人民の解放偉業をなし遂げるための正義のたたかいです。」

金日成主席が正しく指摘しているように、パレスチナ人民をはじめ、各国、各民族のめざす自主、平和は反米、反帝闘争と密接に結びつかなければなりません。帝国主義に対する徹底したたたかいをおこなわずして正義を守り自主を貫くことはできません。

金日成主席は各国が自主の旗、反帝反米の旗を高く掲げてたたかい、その手足をもぎ取れば米帝国主義を倒し世界を自主化することができると述べています。

「小さい国も主体性を確立し、人民大衆を団結させて犠牲を恐れず勇敢に立ち上がって戦うならば、強大な敵にうちかつことができる。これは、実生活によって実証された我々の時代の極めて明白な真理である。朝鮮戦争の経験が、この真理を証明している。」（1968 年 10 月 8 日「アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国人民の偉大な反帝革命偉業は必勝不敗である」）

1951 年、主席は朝鮮戦争の勝敗を決する激戦地、1211 高地を訪れて指揮官たちにたいし“正義のために戦う人民は常に勝利し、不正義の戦争をおこなう侵略者は常に敗北するものです。これは動

かしがたい歴史の発展法則であります”と述べ、勝利の確信を与えています。

従属国を引き連れ圧倒的軍事力をもって朝鮮戦争を開始した米帝国主義は固く団結した軍と人民の前に惨めに敗退しました。

朝鮮の強さの源はチュチェ思想にあり、チュチェ思想で一心団結した領袖、党、人民は必ず帝国主義に打ち勝つことを示しました。

金日成主席は、戦後、世界の多くの国が独立した時代、各国が自主の道に進み、互いに協力して新しい世界秩序をつくるよう導きました。

金日成主席は1987年1月19日、ジンバブエ国会代表団との談話のなかで、独立した諸国は、再び帝国主義の隷属下に入ることがないように、自力更生の原則を貫くことが大切だと述べています。

「こんにち、発展途上諸国の人民には、すでにかちとった政治的独立を強固にし、自立的民族経済を建設し、世界の平和と安全を守るべき課題が提起されています。発展途上諸国は、何よりも政治的自主性を守ることが大切です。…自立的民族経済は、自主独立国家の物質的基礎です。発展途上諸国は自立的民族経済を建設してこそ、国の政治的独立を強固にし、人民を飢餓と貧困から解放することができます。…発展途上諸国が経済的に自立する道は二つあります。その一つは、自力更生、刻苦奮闘して国内資源を最大限に動員、利用することであり、もう一つは集団的自力更生の原則で南南協力を実現することです。これは結局、自分の力を信じて自立自活する同じ道だといえます。…南南協力は、発展途上諸国が経済的、技術的に互いに協力し、交流して経済的自立を達成するための崇高な事業です。南南協力を発展させれば、発展途上諸国は自立的民族経済を成功裏に建設できるだけでなく、不公平な旧国際経済秩序をうちこわし、公正な新国際経済秩序をうち立てることができます。」

いま、金日成主席がさし示した方向で自主・反米反帝闘争は大きく前進しており、帝国主義が作り上げた不公正な世界秩序、帝国主義の二重基準はもはや通用しない時代になっています。

とりわけ、グローバルサウスなど自主の道を歩む勢力が互いに協力し、世界に大きな影響力を発揮するようになっていきます。

グローバルサウスは世界の大多数の人口を擁し、土地の広大さにおいても、世界の政治、経済的実力においても帝国主義諸国に優るようになりました。いまや、米欧帝国主義は世界政治においてグローバルサウスを無視して動くことはできません。

さらに BRICS は世界の 4 割を占める広大な国土、原油や鉄鉱石などの豊富な天然資源、労働力の源泉となる膨大な人口を持つ国々で構成され、欧米主導の世界経済を大きく塗り替えています。BRICS はドル、ユーロから、自国通貨による決済へと移行するようになってきました。

グローバルサウスのなかでは、欧米帝国主義の二重基準にもとづく制裁に与しない国が多くなっています。米欧のロシア、中国、朝鮮への制裁は、新たな経済圏の拡大を促すという皮肉な結果を招

いています。

また、世界各域において、平和な環境で協調しながら発展しようとする機運が強まり、アジア、アフリカ、ラテンアメリカで様々な協力機構が形成されています。

自主の道を行く国の一部では米国に追従しイスラエルの虐殺に加担している国もありますが、その動きは本流とはなりません。

金日成主席は1968年の著作「アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国人民の偉大な反帝革命偉業は必勝不敗である」のなかで、反米反帝自主勢力の団結を徹底して守ることを強調して次のように述べています。

「帝国主義に反対する人々のなかには、いろいろな部類の人がいるでしょう。ある人は帝国主義に反対して積極的に立ち上がるだろうし、ある人は反帝闘争で動揺することもあり、また、ある人は自国人民と世界人民の圧力におされてやむなく反帝闘争に合流することもありえます。しかし、その動機はどうか、帝国主義の手先を除いては、これらすべての勢力を反米共同闘争に引き入れることが必要です。…我々は小さい国を各個撃破しようとするアメリカ帝国主義の戦略にたいして、小さい国がこぞってアメリカ帝国主義の手足と首を切り取ることでこたえなければなりません。こうすることが、アメリカ帝国主義にうちかつための小さい国の闘争戦略であるといえます」

米国の横暴はこれまで親米だった国々の離反を促しています。米国に追従していた国は自主の道を行く国との関係を持つようになり、帝国主義の同盟関係は揺らぎを見せています。

米国は、自ら仕掛けたウクライナ、パレスチナ事態の軍事支出により財政は極度に悪化しています。ヨーロッパ諸国もウクライナへの軍事支援で疲弊し多くの国で極右が台頭するようになりました。

窮地に陥った米欧諸国は、ロシア資産凍結や軍事費への転用という盗賊まがいの政策を発表しました。しかし、ロシア資産の凍結などは、ドル、ユーロの失墜を促す両刃の剣となっていくのは必至です。

米帝国主義は親米国の離反、同盟国の動揺という苦境に直面しながら、さらに国内の混乱が相次ぎ、進退窮まる状況に陥っています。

公平な世界秩序を求める反米、反帝闘争への流れは強まり、その決定的勝利の要因はチュチェ思想をいっそう高々と掲げることにあるといえます。

### 3. チュチェ思想研究普及活動は自国人民の要求と志向に沿って

チュチェ思想研究普及活動は反帝自主の闘争を牽引する先行的活動といえます。

こんにち、多くの国と地域でチュチェ思想研究普及活動がおこなわれています。

米帝国主義が戦争を勃発させ極度に緊張している中東とヨーロッパにおいても、チュチェ思想研究者は信念をもって活動してきました。

日本の沖縄では毎年 1 月に金正恩総書記誕生を祝賀してチュチェ思想全国セミナーが開催されます。今年も、レバノン・チュチェ思想研究会会長から祝賀メッセージが届き会場で発表されました。メッセージには、集会に参加することができないことを残念に思いながら、「パレスチナとレバノン南部を占領したシオニスト帝国主義による継続的なガザ侵略によって直接的に影響を受けているレバノンとパレスチナの状況が私たちの前にたちだかっています。私たちはいま、決して屈しない抵抗のさなかにあります。」と記されていました。

また、ロシアのチュチェ思想研究者は 2023 年 9 月ローマで開かれた朝鮮民主主義人民共和国創建 75 周年を祝賀するヨーロッパ地域のチュチェ思想研究セミナーで、ヨーロッパと世界の正義と自主のためのロシア人民のたたかいについてスピーチをおこないました。

米帝国主義と厳しいたたかいを繰り広げる国や地域からチュチェ思想研究者が寄せるメッセージに、参加者は深く感動し強い支持、連帯の意思を表明しました。

世界のチュチェ思想研究者は、反帝自主の闘争を力強く展開していくうえでも、チュチェ思想研究普及活動を積極的におし進めていかなければなりません。

世界のチュチェ思想研究普及活動の発展のために、チュチェ思想研究者がなすべきことの第一は、自己の任務について明確に認識していくことです。

チュチェ思想研究者の任務はまず、チュチェ思想を深く系統的に学ぶことです。

チュチェ思想を学び深く理解するうえで、チュチェ思想を具現している朝鮮民主主義人民共和国



チュチェ思想国際研究所理事会第 22 回会議に参加した各国の理事  
(ピョンヤン、2024 年 4 月 14 日)

に注目することが重要です。

朝鮮を訪問し、社会主義建設に沸き立つ朝鮮の現実に触れ、チュチェ思想を系統的に深く学ぶことは自国と世界の自主化のたたかいをおし進めるうえで不可欠です。

つぎにチュチェ思想研究者は、自分自身が金日成・金正日主義者になる努力と闘争をおこなうことが大切です。

金日成・金正日主義者は、金日成・金正日主義を信念とし、チュチェの革命偉業の勝利のためにすべてをささげてたたかうチュチェ型の革命家です。

さらにチュチェ思想研究者は、自分自身が活動に献身するだけでなく、チュチェ思想研究普及活動の新しい担い手、同志を育成することが重要です。

チュチェの同志の隊伍を拡大し、その周りに広範な民衆を組織していくことが自国を自主化するたたかいの主体を形成することになります。

チュチェ思想研究者がなすべきことの第二は、チュチェ思想研究普及活動における方法論を正しく認識し活動することです。

チュチェ思想研究普及活動は、自主性を擁護する原則を打ちたてておこなっていかなければなりません。

自主性を貫く活動とは、自国人民の感情、要求に即した活動を指します。

朝鮮がチュチェ思想を立派に具現しているからといって、朝鮮の物まねや形式主義に陥れば、自国人民の賛同を得ることも注目されることもないでしょう。

世界的にチュチェ思想研究普及活動をよくおこなっている地域を訪問すると、そこに共通している活動があります。

そのひとつに、地域の人々の要求や問題意識に根差したチュチェ思想セミナーにするための配慮が行き届いていることです。

それぞれの国や地域の発展と結合してチュチェ思想を研究し普及しようと、会場に旗を掲げるにしても、朝鮮の旗だけではなく自国の旗をもとに用いるようにしています。

また、チュチェ思想研究活動は財政活動を保障する問題をはじめ、すべてを自力更生の原則をもって取り組み解決することが重要です。

チュチェ思想研究者がつくった組織や団体で会費を集めたり、活動に賛同する民主人士や篤志家からカンパを集めたりして財政基盤を恒常的に整えていかなければなりません。チュチェ思想の研究資料、図書を発刊し販売して資金にすることもできるでしょう。

さらに、チュチェ思想研究者にとって重要なことは、自国の社会政治的問題に関与していくことです。

金日成主席は1977年9月25日、チュチェ思想に関する国際討論会に参加した日本チュチェ思想研究学術代表団にたいする談話のなかで、次のように述べています。

「今度の討論会で特に良かったと思われることは、多くの代表たちが新しい社会の建設と民族的独立を強固にするための事業をいかにすべきかという問題を自国の実情と結びつけて多く討論したことです。新たに独立した国の代表団団長たちと代表たちは、どうすれば自分の国を自主的な独立国家に建設し、社会主義への道を進むかを深く研究し討論しました。」

世界のチュチェ思想研究者には、自国を自主化し世界の自主化にとりくむことが求められています。

日本では、昨年暮れから今年にかけて、チュチェ思想研究者が中心となって在日パレスチナ人と協力して東京、大阪の主要都市で米帝国主義とイスラエル傀儡によるガザ攻撃を止めさせるための講演会を、京都ではデモをおこない、日本政府、米大使館、イスラエル大使館に抗議文書を送りました。

福島では13年前の3月11日、巨大地震によって原子力発電所が爆発しおびたしい犠牲者を出しました。その後の調査で、原発事故をはじめとする関連死、行方不明は合わせて2万4千人、いまだ避難して故郷に帰れない人は3万人という被害が明らかになりました。

今年3月中旬、福島では原発事故の犠牲者を悼んで集会がおこなわれ、500余名が参加しました。

また、来る4月20日には、同地で金日成主席生誕を祝賀するチュチェ思想全国セミナーを開催する計画です。

原発事故で被災した多くの人々はいまだ故郷に帰れないばかりか、厳しい避難生活を送っています。

政治が民衆のために、民衆が幸せになるために機能するには、世界のチュチェ思想研究者が自国のなかにチュチェ思想を粘り強く広めていくことが求められています。

各国と協力し、各大陸と連携し、チュチェ思想国際研究所とも連携を密にとって、チュチェ思想研究普及活動を加速させていきましょう。



チュチェ思想と原発に関するセミナー（福島・郡山市 2024年4月20日）